

不破高校朝読通信 第16号

平成26年1月14日（火）
発行 岐阜県立不破高等学校図書部

クラス別・個人別 図書貸出冊数 ベスト1 ベスト2

月	種 類	ベスト1	ベスト2
12月	総合貸出冊数	1年4組	3年3組
	朝読書用学級文庫貸出冊数	該当なし	該当なし
	個人貸出冊数	1年4組	3年3組

紹介する本

題 『手ぶくろを買いに』
作 新美南吉（にいみなんきち）
絵 黒井 健（くろいけん）
発行者 今村正樹
発行所 偕成社（かいせいしゃ）
発 行 1988年3月 1刷
2012年9月 166刷
定 価 1,400円＋税
図書館に有

図書館の朝一番の仕事は、何だと思いでしょか。色々な仕事がある中で、新聞を皆さんに読んでいただけるように準備をするのも、開館前の一つの仕事なのです。その新聞の一面の下の欄に、本の広告欄があるのを皆さんもご存じのことと思います。図書館の仕事の楽しみの一つにその広告欄を読むことがあるのです。

さて、ある日のことです。新美南吉作、『手ぶくろを買いに』が、次のように広告欄に紹介されていました。

冷たい雪で牡丹色（ぼたんいろ）になった子狐（こぎつね）の手を見て、母狐（ははぎつね）は毛糸の手袋（てぶくろ）を買ってやろうと思います。

その夜、母狐は子狐の片手を人の手にかえ、銅貨（どうか）をにぎらせ、かならず人間の手のほうをさしだすんだよと、よくよく言いふくめて町へ送り出しました。

はたして子狐は、無事、手袋を買うことができるでしょうか。

この文を読んで私は、ハラハラしました。子狐は人間の手のほうではなく、狐のほうの手を出して、鉄砲で撃たれて死んでしまうのではないかと、それは心配したのです。残された母狐はどうするのでしょうか、悲しい悲しい気持ちに襲われたのです。

それで、さっそく図書館で購入してもらえるように、「リクエスト」をしました。その願いは聞き届けられて、本が図書館に届いたのです。うれしさのあまり、私は、届いた本を大切な宝物を扱うように眺めてみたのです。

表紙の絵が大変すばらしいのです。優しい、母狐と子狐の絵が、金色で描かれています。雪の降る野原で、母狐が牡丹色になった子狐の手を、優しく優しく握って温めている様子が描かれています。子狐は、お母さん狐の目をしっかりと見つめています。遠くには、綿帽子をかぶった民家が描かれてもいます。

それで、司書のN先生に、「いい本ですね。絵が詩情をかきたてて、物語を生んでいるようですね。」と、話しかけたのです。すると、N先生は、「たくさんの出版社から、『手ぶくろを買いに』の絵本が出ている中から、絵が好評なものを選びました。」と、ご返事をくださったのです。また、「普通の絵本のような絵でなく、本物に近いような絵がいいですね。」とも、付け加えていただきました。本当に心が休まるような絵です。

さて、話を元に戻しましょう。子狐は無事に手ぶくろを買うことができたのでしょうか。それとも……。

続きは読んでのお楽しみです。